

【今週の注目疾患】

《レジオネラ症》

2024年第46週に県内医療機関から8例の届出があり、本年の累計届出数は直近10年間で最多の114例となった(図1)。

レジオネラ症は、1年を通して発生が見られるが、夏から秋にかけて特に届出が多くなる傾向がある。本年は第46週時点において、11月の届出数が14例と直近10年間で最多となっており(図2)、引き続き発生動向を注視していく必要がある。

図1：2015年から2024年の県内のレジオネラ症の診断年別届出数
(2024年第46週時点)

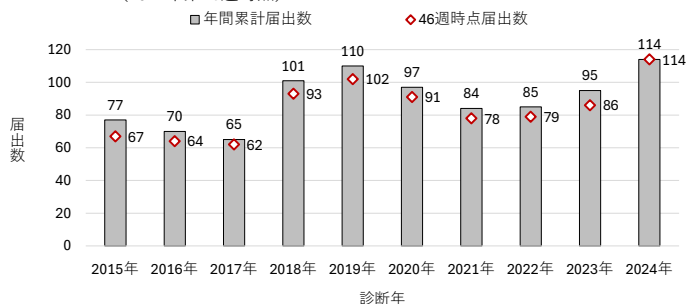
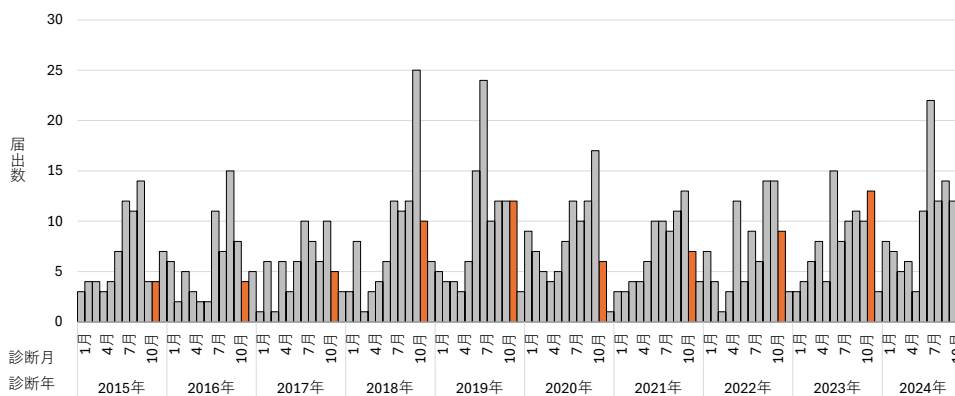


図2：2015年から2024年の診断年月別レジオネラ症の届出数(2024年第46週時点)



レジオネラ症は、土壌や水環境に広く存在するレジオネラ属菌による細菌感染症であり、主な病型として重症の肺炎を引き起こすレジオネラ肺炎と、一過性で自然に治癒するポンティアック熱がある。感染経路としては、エアロゾルを発生させる人工環境(循環水を利用した風呂、加湿器、噴水等の水景施設、空調設備の冷却塔等)を感染源とするエアロゾル感染、温泉浴槽水や河川の水を吸引・誤嚥したことによる感染、汚染された土壌の粉塵を吸い込んだことによる塵埃感染などがある^{1,2)}。

高齢者や新生児は肺炎を起こす危険性が高く注意が必要である。また、大酒家、喫煙者、透析患者、移植患者や免疫機能が低下している人もレジオネラ肺炎のリスクが高いとされている¹⁾。

対策としては、追い炊き機能付きの風呂や24時間風呂などの循環式浴槽を備え付けている場合には、配管や浴槽内に汚れやぬめり(バイオフィルム)が生じないように定期的に清掃を行うなど、取扱説明書に従って維持管理をすることが重要である。また、超音波振動などの加湿器を使用する時には、毎日水を入れ替えて容器を洗浄することが大切である¹⁾。エアロゾルが発生する高圧洗浄や、粉塵が発生する腐葉土の取り扱い等にあたってはマスクを着用して感染を予防していただきたい²⁾。

■引用・参考

1)厚生労働省：レジオネラ症

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_00393.html

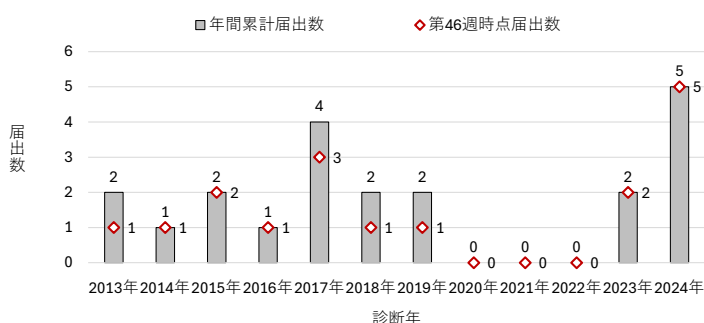
2)国立感染症研究所：レジオネラ症とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/530-legionella.html>

《侵襲性髄膜炎菌感染症》

2024年第46週に県内医療機関から届出が1例あり、本年の累計届出数は本疾患のサーベイランスが開始された2013年4月以降で最多の5例となった(図3)。全国においても、本年は第45週までに52例の届出があり、過去最多となっている^{1,2,3)}。

図3：2013年から2024年の県内の侵襲性髄膜炎菌感染症の診断年別届出数
(2024年第46週時点)



髄膜炎菌はグラム陰性の双球菌で、健康なヒトの鼻咽頭からも低頻度ながら分離され、保菌者・患者から飛沫感染で伝播する。侵襲性感染症としては、菌血症(敗血症なし)、髄膜炎を伴わない敗血症、髄膜炎、髄膜脳炎の4つの病型がある。敗血症を発症すると予後が悪い。急性劇症型として副腎出血や全身のショック状態を呈するWaterhouse-Friderichsen症候群がある。非侵襲性感染症としては、肺炎・尿道炎など多彩な病像がある。潜伏期間は2～10日(平均4日)で発症は突発的である⁴⁾。

侵襲性髄膜炎菌感染症のリスク因子は、多くの人が集うイベント、学生寮など共同生活を行っている場などとされ、これまでに国内で届出のあった患者には海外渡航歴がないことが多い^{3,4)}。

診断した医師は直ちに保健所へ届出を行うこととされている。濃厚接触者に対しては可能な限り早期に抗菌薬による曝露後の予防投与が推奨されている。侵襲性感染のほとんどはA、B、C、Y、Wの5つの血清群によるものであり、国内ではA、C、Y、W群を含む4価ワクチンが承認されているが、B群には効果がないため注意が必要である。海外の流行地域への渡航者やハイリスク者(無脾症、脾臓摘出者、補体欠損症、免疫不全者など)に対して接種が推奨されている^{3,4,5)}。

■参考・引用

1)国立感染症研究所：IDWR速報データ 2024年第45週

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/data/12980-idwr-sokuho-data-j-2445.html>

2)厚生労働省・国立感染症研究所：感染症発生動向調査事業年報

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/allarticles/surveillance/2270-idwr/nenpou/12553-idwr-nenpo2022.html>

3)国立感染症研究所：感染症法に基づく侵襲性髄膜炎菌感染症の届出状況のまとめ(更新)、2013年4月～2024年6月

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/bac-meningitis-m/bac-meningitis-idwrs/12866-mlst-20240912.html>

4)国立感染症研究所：侵襲性髄膜炎菌感染症 2013年4月～2017年10月

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/bac-meningitis-m/bac-meningitis-iasrtpc/7784-455t.html>

5)新興再興感染症のリスク評価とバイオテロを含めた危機管理機能の実装のための研究班：髄膜炎菌髄膜炎

<https://www.niph.go.jp/h-crisis/bt/other/38detail/>